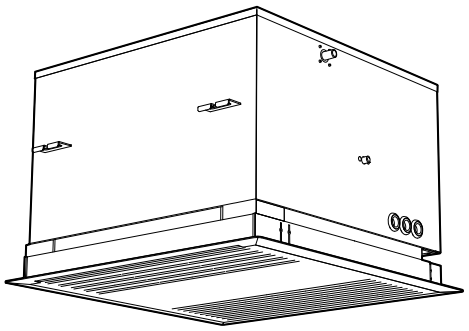
Wetmaster®

施工業者様向け

天埋カセット型、滴下浸透気化式加湿器 てんまい加湿器®

試運転作業要領書

加湿器本体

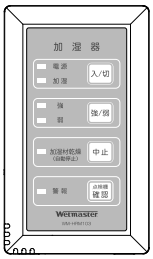


VCJ2201 / VCJ2201A
VCJ2201E / VCJ2201AE

リモコンスイッチ

標準リモコンスイッチ
(VKRM-3)

ヒューミ付リモコン
(HRM103)



- このたびはウエットマスター滴下浸透気化式加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。
- この試運転作業要領書には加湿器の施工およびリモコンスイッチ初期設定が完了した状態において、加湿器が正常に作動するかの試運転手順について記載しています。この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、作業の前に必ずお読みいただき、正しい作業を行ってください。
- 本書の内容以外に関する説明は下記を参照し、該当するドキュメントをご確認ください。

施工要領書	設定要領書	取扱説明書
加湿器本体の取付、給排水接続、電気配線（計装）など、加湿器の施工に関する説明を記載しています。	施工およびリモコンスイッチ初期設定完了後、加湿器が正常に作動するかの試運転手順について記載しています。	運転動作、運転管理、一般保守要領など、加湿器の取り扱いについて記載しています。

もくじ

安全のために必ず守ること …… P.1

1 機器構成の確認と参照頁 - 試運転作業の前に -
ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合を含む

1-1 外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合 …… P.2
1-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合…… P.3
1-3 VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合 … P.4

2 外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合
ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合を含む

2-1 試運転準備…… P.5
2-2 試運転手順…… P.6
2-3 試運転後の作業と最終点検 …… P.6
■試運転チェックリスト …… P.7

3 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

3-1 試運転準備…… P.8
3-2 試運転手順…… P.9
3-3 試運転後の作業と最終点検 …… P.9
■試運転チェックリスト …… P.10

4 VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

4-1 試運転準備…… P.11
4-2 試運転手順…… P.12
4-3 試運転後の作業と最終点検 …… P.12
■試運転チェックリスト …… P.13

5 警報・試験について

5-1 警報発報時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について… P.14
5-2 警報表示の原因と処置 …… P.14
5-3 擬似警報発報手順とリセット方法…… P.14
5-4 停電試験を行う場合 …… P.14

6 参考

6-1 コントロールユニット詳細 …… P.15
6-2 型番、シリアル番号、ロット番号表示位置…… P.15

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、取り扱ってください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- 誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡、重症を負う可能性があるもの
⚠注意	誤った取り扱いをしたときに、使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生に結びつくもの

- 図記号の意味は以下のとおりです。

必ず守る	絶対しない	触らない	濡れ手禁止 絶対に濡れた手で触らない	水濡れ禁止 絶対に水に濡らさない

⚠警告

必ず守る

取付工事は、専門業者に依頼する

取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

必ず守る

高所作業時の安全を確保する

高さが2メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

必ず守る

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

通電したままの作業は感電の原因になります。

必ず守る

活線作業を行う際は、絶縁用保護具を着用するか、活線作業用器具を使用する

適切な保護具、器具を使用しない場合、感電の原因になります。

必ず守る

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工する

電源回路要領不足や取付不備があると感電・火災の原因になります。

必ず守る

電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する

接続や固定が不完全な場合は、発煙、火災の原因になります。

必ず守る

加湿器元電源には、必ず加湿器専用の漏電ブレーカを取り付ける

漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になります。

必ず守る

工事部材は付属品および指定の部材を使用する

寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、落下・水もれ・感電・火災などの原因になります。

必ず守る

作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する

やけど・けがの原因になります。

絶対しない

改造はしない

故障や水もれ・感電・火災の原因になります。

水濡禁止

加湿器本体・リモコンスイッチに水、液体をかけないこと

ショート・漏電・感電・事故・発煙・火災の原因になります。

濡れ手禁止

濡れた手で電気部品に触ったり、スイッチ・ボタンを操作しない

感電・事故・発煙・火災の原因になります。

触らない

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触らない

やけど・感電の原因になります。

⚠注意

必ず守る

水道法、消防法等に規制される部材の取り扱いについては、専門業者に依頼する

法令を遵守した施工が必要です。

絶対しない

濡れて困る物の上に加湿器を設置しない

適切にメンテナンスがされていない場合、水もれの恐れがあります。

必ず守る

アース接続（D 種接地工事）を行うこと

アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

絶対しない

移動できないものの上に加湿器を設置しない

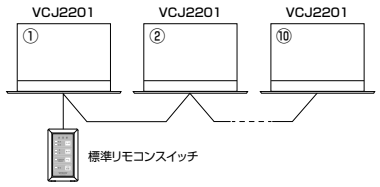
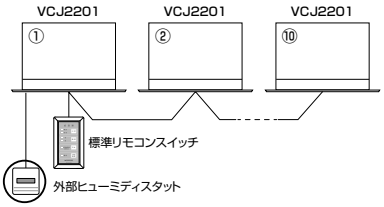
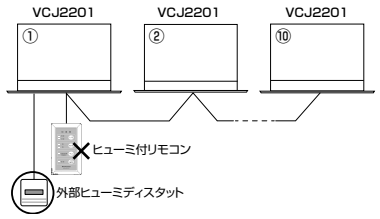
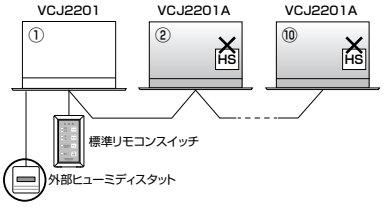
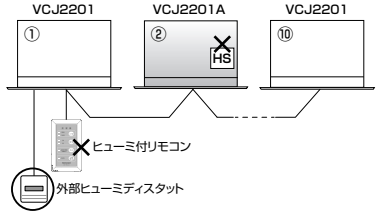
後々のメンテナンスができなくなる恐れがあります。

1 機器構成の確認と参照頁 - 試運転作業の前に -

試運転作業の前に P.2 ～ P.4 に記載の機器構成を確認し、指示された頁を参照してください。

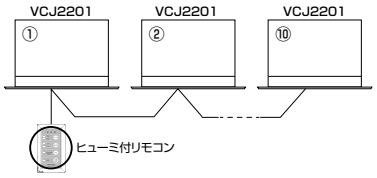
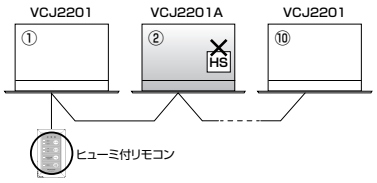
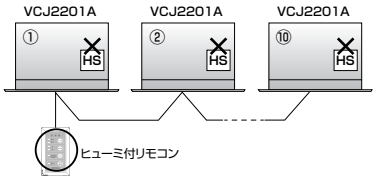
1-1 外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合
（ヒューミディスタットなし、湿度検知をしない場合を含む）

- 外部ヒューミディスタットは客先ご用意となります。
- 緊急停止機能付は型番末尾に E が付きます。

	機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	作業内容
❶	 加湿器　：VCJ2201 リモコン：標準リモコンスイッチ 湿度検知：行わない	VCJ2201 を標準リモコンスイッチで単独運転またはグループ運転させる組合せで、**湿度検知を行わない**。	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 が短絡されていることを確認**してください。	**P.5** を参照
❷	 加湿器　：VCJ2201 リモコン：標準リモコンスイッチ 湿度検知：外部ヒューミディスタット	VCJ2201 を標準リモコンスイッチで単独運転またはグループ運転させる組合せで、**外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う**。	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●外部ヒューミディスタットが加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 に接続されていること**。	**P.5** を参照
❸	 加湿器　：VCJ2201 リモコン：ヒューミ付リモコン 湿度検知：外部ヒューミディスタット	VCJ2201 をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う**。	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●外部ヒューミディスタットが加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 に接続されていること**。 ●別冊の設定要領書 **9-3 ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する制御グループ パターン⊟**に記載されている外部ヒューミディスタットの設定が完了していること。	**P.5** を参照
❹	 加湿器　：VCJ2201+VCJ2201A リモコン：標準リモコンスイッチ 湿度検知：外部ヒューミディスタット	VCJ2201 と VCJ2201A を標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、**外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う**。	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●外部ヒューミディスタットが加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 に接続されていること**。 ●別冊の設定要領書 **9-2 VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを無効化する　制御グループパターンA**に記載されている設定が完了していること。	**P.5** を参照
❺	 加湿器　：VCJ2201+VCJ2201A リモコン：ヒューミ付リモコン 湿度検知：外部ヒューミディスタット	VCJ2201 と VCJ2201A をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う**。	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●外部ヒューミディスタットが加湿器本体内端子台の**端子 L1、L2 に接続されていること**。 ●別冊の設定要領書 **9-4 VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを無効化し、ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する　制御グループパターンC**に記載されている設定が完了していること。	**P.5** を参照

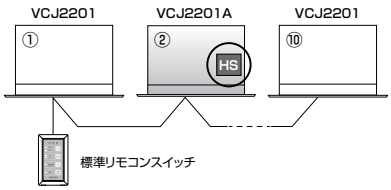
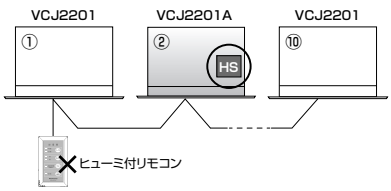
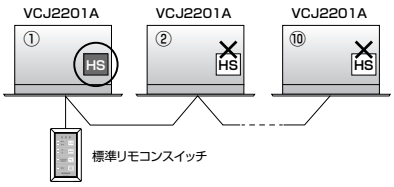
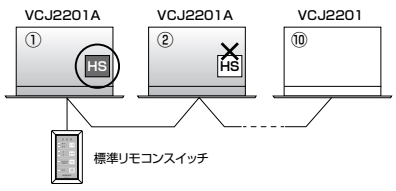
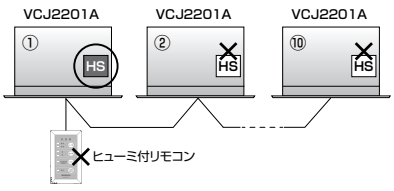
1-2 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

● 緊急停止機能付は型番末尾に E が付きます。

	機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	作業内容
❻	 加湿器　：VCJ2201 リモコン：ヒューミ付リモコン 湿度検知：ヒューミ付リモコン	VCJ2201 をヒューミ付リモコンで単独運転またはグループ運転させる組合せで、**ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。**	標準設定のため設定確認項目はありません。	**P.8** を参照
❼	 加湿器　：VCJ2201+VCJ2201A リモコン：ヒューミ付リモコン 湿度検知：ヒューミ付リモコン	VCJ2201 と VCJ2201A をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。**	標準設定のため設定確認項目はありません。	**P.8** を参照
❽	 加湿器　：VCJ2201A リモコン：ヒューミ付リモコン 湿度検知：ヒューミ付リモコン	VCJ2201A をヒューミ付リモコンで単独運転またはグループ運転させる組合せで、**ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う。**	標準設定のため設定確認項目はありません。	**P.8** を参照

1-3 VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

● 緊急停止機能付は型番末尾に E が付きます。

	機器構成	湿度検知	試運転前の設定確認項目	作業内容
⑨	 加湿器　：VCJ2201+VCJ2201A(1台) リモコン：標準リモコンスイッチ 湿度検知：VCJ2201A 内蔵 ヒューミディスタット	VCJ2201とVCJ2201A(1台)を 標 準 リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、**1 台の VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**	標準設定のため設定確認項目はありません。	**P.11** を参照
⑩	 加湿器　：VCJ2201+VCJ2201A(1台) リモコン ：ヒューミ付リモコン 湿度検知 ：VCJ2201A 内蔵 ヒューミディスタット	VCJ2201 と VCJ2201A(1台)をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**1 台の VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●別冊の設定要領書 **9-3 ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する　制御グループパターンB**に記載されている設定が完了していることを確認してください。	**P.11** を参照
⑪	 加湿器　：VCJ2201A リモコン ：標準リモコンスイッチ 湿度検知 ：VCJ2201A 内蔵 ヒューミディスタット	VCJ2201A を標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、**1 台（任意）の VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●別冊の設定要領書 **9-2 VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを無効化する　制御グループパターンA** に記載されている設定が完了していることを確認してください。	**P.11** を参照
	 加湿器　：VCJ2201+VCJ2201A リモコン ：標準リモコンスイッチ 湿度検知 ：VCJ2201A 内蔵 ヒューミディスタット	VCJ2201 と VCJ2201A を標準リモコンスイッチでグループ運転させる組合せで、**1 台（任意）の VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**		
⑫	 加湿器　：VCJ2201A リモコン ：ヒューミ付リモコン 湿度検知 ：VCJ2201A 内蔵 ヒューミディスタット	VCJ2201A をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、**1 台（任意）の VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを有効にして湿度検知を行う。**	試運転の前に、以下の事項を確認してください。 ●別冊の設定要領書 **9-4 VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットを無効化し、ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する　制御グループパターンC**に記載されている設定が完了していることを確認してください。	**P.11** を参照

2 外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合

※ヒューミディスタット無し / 湿度検知をしない場合も本章の内容を参照してください。

2-1 試運転準備

警告

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

❗ 通電したままの作業は感電の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

- □ 水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること
- □ 給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
- □ 排水ホースはホースバンドで確実に接続され、排水配管は 1/100 以上の先下がり勾配が確保され、流れに障害がないこと
- □ 立ち上げ配管の場合、呼び径 13mm の塩ビ管または内径 φ15 ホースを使用し、立ち上げ高さ 800mm 以内（天井面から最大 1,200mm）に施工されていること
  市販の排水ホース（φ 19、φ 20）を使用している場合は別冊の施工要領書に記載の「市販の排水ホースを使用して排水配管を立ち上げる場合」に準じた施工がされていること
- □ 各電気配線が正しく接続・固定されていること
- □ ヒューミディスタットが無い（湿度検知を行わない）場合はリモコンスイッチを接続した加湿器本体の端子 L1, L2 が短絡されていること
- □ グリル枠と天井板の間に、すき間やずれがないこと
- □ 天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
- □ 給水配管のフラッシングが十分に実施されていること
- □ P.2 ～ 4 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照）
- □ 加湿器本体内コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の制御要件に合っていること（表 -1、表 -2、表 -3 参照）

表 -1
運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定

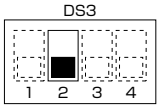
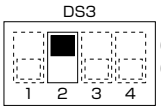
	電源表示灯と連動（出荷時設定）	加湿表示灯と連動
運転信号出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」で出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」かつヒューミディスタット入力「ON」で出力
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.15 図 -5 を参照	
	スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。	実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 -2
外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

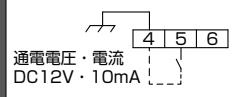
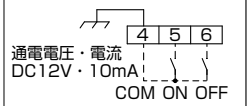
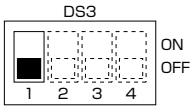
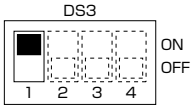
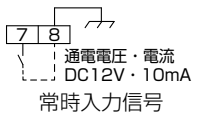
	常時入力信号（出荷時設定）	瞬時入力信号
運転信号出力		
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.15 図 -5 を参照	
	運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。	100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

表 -3
緊急停止機能を使用する場合の信号出力と配線接続

	緊急停止信号入力
対象型番	緊急停止機能付の VCJ2201E、VCJ2201AEのみ対象
信号の種類と配線接続	 常時入力信号
備考	緊急停止信号入力時に ON、通常時は OFF となる接点信号を入力してください。

警告

試運転作業は漏電ブレーカを遮断してから行う

❗ 本加湿器は給電開始後、24 時間※を経過するとファンが起動し加湿材乾燥運転を行います（定時乾燥タイマー）。ケガの原因となる作業中のファン起動を抑止するため、試運転作業前には漏電ブレーカの遮断による定時乾燥タイマーのリセットを行ってください。
※製品生産時期によっては、初回のみ給電後 12 時間で乾燥運転を行う場合があります。詳細はあらかじめお渡しした仕様書をご確認ください。

● 試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

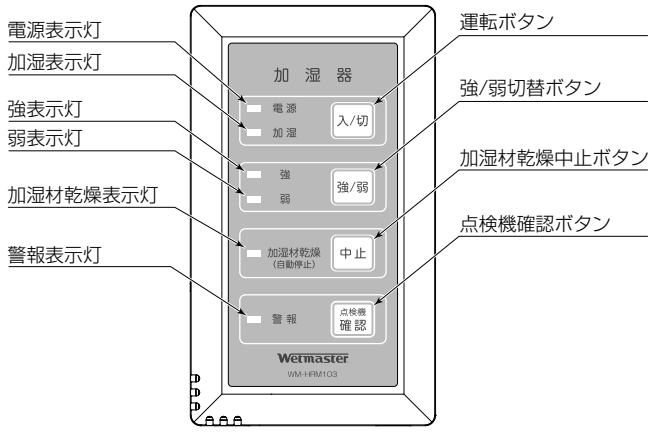
- □ 給水サービス弁を開ける
- □ ヒューミディスタットの設定を最大にする
- □ 加湿器元電源の漏電ブレーカを遮断した後、ON にして電源を供給する
- □ リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する

※リモコンスイッチ初期設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、別冊の設定要領書または、QR コードより手順を参照し、リモコンスイッチ初期設定を行ってください。設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。

【動画】リモコンスイッチ初期設定

2-2 試運転手順

● 準備完了後、下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください（次頁の試運転チェックリストをご活用ください）。

作業手順	注記
①運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約 10 分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。  	※ 運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「加湿要求信号がない（ヒューミディスタットの設定）」、「リモコンスイッチ初期設定がされていない」などの原因が考えられます。QR コードから FAQ を参照し、原因を特定してください。 【Web サイト /FAQ】 「加湿器が運転しない」
②運転開始の約 15 分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内コントロールユニットの LED10（P.15 図 -5 参照）が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。	※ドレン排水用ポンプはドレンパンに 750m ℓ 程度の水が溜まると作動します。
③そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれのないこと、警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。	※試運転作業中に警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内コントロールユニット LED の点灯状態を確認してください（P.15 図 -5 参照）。警報表示の解除と対処方法は、P.14「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。
④強 / 弱切替ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いこと、吹出口から風が出ていることを確認する。	
⑤ヒューミディスタットの設定目盛りを動かして接点を ON/OFF させ、加湿表示灯が点灯 / 消灯することを確認する（ファンは加湿器運転開始約 10 分後に運転を開始します）。	※擬似的に警報を発報させる場合は、P.14「5-3 擬似警報発報手順とリセット方法」を参照してください。
⑥運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、全ての表示灯が消灯することを確認する。	※試運転作業前に漏電ブレーカが遮断されなかった場合、ファンが起動することがあります（加湿材乾燥表示灯が点灯）。これは定時乾燥タイマーが積算通電時間に達したことによる加湿材乾燥運転機能の起動によるものです。加湿材乾燥中止ボタンを押すと停止します。
⑦全ての表示灯が消灯している状態で、強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に 3 秒間長押しし、加湿材乾燥運転を実施してください（加湿材乾燥表示灯が点滅）。加湿材乾燥運転は約 2 時間後に自動終了します。	

2-3 試運転後の作業と最終点検

● 試運転が終了したら、ヒューミディスタットの設定を希望湿度に合わせてください。

● 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

□ 加湿器本体は水平ですか？	□ 排水配管の先下り勾配は確保されていますか？
□ 給水配管からの水もれはありませんか？	□ 本体内部での水もれはありませんか？（化粧グリルを開けて内部点検）
□ 排水配管からの水もれはありませんか？	□ 各電気配線は正しく接続・固定されていますか？

てんまい加湿器® 試運転チェックリスト

対象機器：WM-VCJ2201 ／ WM-VCJ2201E ／ WM-VCJ2201A ／ WM-VCJ2201AE
湿度検知：外部ヒューミディスタットまたはヒューミディスタット無し（湿度検知をしない）

物件名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※本チェックリストは、必ず試運転作業要領書を一読してからご使用ください。

作業年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業会社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業担当名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Wetmaster（ ／ ）

●てんまい加湿器／ VCJ タイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
●機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

	確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
❶	設置位置	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
❷	加湿器型番	VCJ2201(E)またはVCJ2201A(E)	VCJ2201Aの場合は「A」に○、VCJ2201Eの場合は「E」に○を記入	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E
❸	Lot. No.	ロット番号の記録	化粧グリルを開けると確認できます										
❹	シリアル番号	シリアル番号の記録											

	実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
①	給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気が無いこと										
②	運転信号出力の設定	加湿器本体内基板コントロールユニット上のディップスイッチ DS3 を確認	Ⓐ「電源表示灯と連動」(DS3 2 番ピン OFF) Ⓑ「加湿表示灯と連動」(DS3 2 番ピン ON)	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
③	外部指令信号入力の設定	加湿器本体内基板コントロールユニット上のディップスイッチ DS3 を確認	Ⓐ「常時入力信号」(DS3 1 番ピン OFF) Ⓑ「瞬時入力信号」(DS3 1 番ピン ON)	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
④	リモコンスイッチ初期設定の実施	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合、リモコンスイッチ初期設定がされていません。強 / 弱切替ボタンと加湿材乾燥中止ボタンを同時に 3 秒以上長押し、リモコンスイッチ初期設定を実施する										
⑤	ヒューミディスタット接続の有無	加湿器本体端子 L1, L2	ヒューミディスタットが接続されている加湿器の□接続にチェック	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続	□ 接続
			ヒューミディスタット無しで湿度検知をしない場合は、端子 L1, L2 が短絡されていること	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡	□ 短絡
⑥	ヒューミディスタットとの連動確認【起動】	外部ヒューミディスタット (ヒューミディスタット無しの場合は該当しません)	加湿信号 ON によりリモコンスイッチ加湿表示灯が点灯し、10 分後に本体ファンが起動すること										
⑦	加湿モジュール湿潤状態の確認	加湿器本体内加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑧	加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	強 / 弱切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑨	ドレン排水用ポンプ動作確認	加湿器本体内ドレン排水用ポンプ コントロールユニットの LED10	運転開始約 15 分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること コントロールユニットの LED10 が点灯すること										
⑩	異常検知加湿器停止確認	加湿器本体 リモコンスイッチ	濡れた布などで漏水センサを擬似的に検知させ、加湿器が停止しリモコンスイッチ警報表示灯が点灯すること										
⑪	水もれが無いことを確認	加湿器本体 給排水配管	30 分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれの無いこと										
⑫	VCJ2201EまたはVCJ2201AEをグループ内で親機とした緊急停止の確認	緊急停止信号入力（常時入力信号）	グループ内で連動して緊急停止状態（ファン停止、リモコンスイッチ全消灯）になっていること										
⑬	ヒューミディスタットとの連動確認【停止】	外部ヒューミディスタット (ヒューミディスタット無しの場合は該当しません)	加湿信号 OFF によりリモコンスイッチ加湿表示灯が消灯しファンが停止すること										
⑭	加湿材の乾燥	リモコンスイッチ	運転ボタンを押し電源表示灯を消灯させ、運転停止中に強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に 3 秒間長押しし、加湿材乾燥表示灯が点滅すること										
		※ 2 時間後、自動的に加湿器本体は加湿材乾燥運転を停止し、加湿材乾燥表示灯が消灯します											

備考　【作業後の状態】　給水バルブ：　開・閉　　漏電ブレーカ：　ON・OFF　　ヒューミディスタット設定：　　% RH

✓ ：実　施
× ：未実施
－ ：該当無し

3 ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合

3-1 試運転準備

⚠警告　ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

❗ 通電したままの作業は感電の原因になります。

●試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

□水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること
□給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
□排水ホースはホースバンドで確実に接続され、排水配管は1/100以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと
□立ち上げ配管の場合、呼び径 13mm の塩ビ管または内径 φ15 ホースを使用し、立ち上げ高さ 800mm 以内（天井面から最大 1,200mm）に施工されていること
市販の排水ホース（φ 19、φ 20）を使用している場合は別冊の施工要領書に記載の「市販の排水ホースを使用して排水配管を立ち上げる場合」に準じた施工がされていること
□各電気配線が正しく接続・固定されていること
□グリル枠と天井板の間に、すき間やずれがないこと
□天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
□給水配管のフラッシングが十分に実施されていること
□P.2 ～ 4 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照）
□加湿器本体内コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の制御要件に合っていること（表 -4、表 -5、表 -6 参照）
□連動運転を行う場合は、別冊の設定要領書「4-2 ヒューミ付リモコンで連動運転を行う場合」に記載されている設定が完了していること

表 -4
運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定

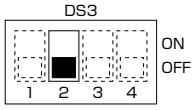
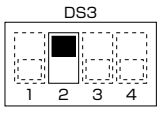
	電源表示灯と連動（出荷時設定）	加湿表示灯と連動
運転信号出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」で出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」かつヒューミディスタット入力「ON」で出力
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.15 図 -5 を参照	
	スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。	実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 -5
外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

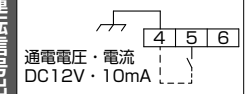
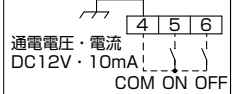
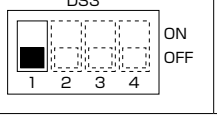
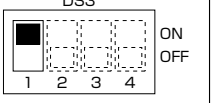
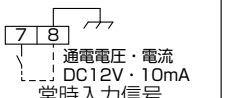
	常時入力信号（出荷時設定）	瞬時入力信号
運転信号出力		
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.15 図 -5 を参照	
	運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。	100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

表 -6
緊急停止機能を使用する場合の信号出力と配線接続

	緊急停止信号入力
対象型番	緊急停止機能付の VCJ2201E、VCJ2201AEのみ対象
信号の種類と配線接続	
備考	緊急停止信号入力時に ON、通常時は OFF となる接点信号を入力してください。

⚠警告　試運転作業は漏電ブレーカを遮断してから行う

❗ 本加湿器は給電開始後、24 時間※を経過するとファンが起動し加湿材乾燥運転を行います（定時乾燥タイマー）。ケガの原因となる作業中のファン起動を抑止するため、試運転作業前には漏電ブレーカの遮断による定時乾燥タイマーのリセットを行ってください。
※製品生産時期によっては、初回のみ給電後 12 時間で乾燥運転を行う場合があります。詳細はあらかじめお渡しした仕様書をご確認ください。

以下の「試運転モード」ディップスイッチ切替作業は、活線作業（DC12V）となります
必ず、絶縁用保護具を着用するか活線作業用器具を使用してください

❗ 適切な保護具、器具を使用しない場合は感電の原因になります。

⚠注意　リモコンスイッチケースの損傷に注意

❗ リモコンスイッチケースを開ける際は、マイナスドライバの先にウエスを挟むなどの養生を行ってください。

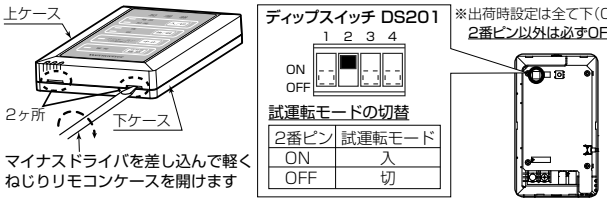
⚠注意　基板の取り扱いに注意

❗ リモコンスイッチ基板は上ケースに付いています。取り扱いの際は基板の損傷に注意してください。また基板へのゴミや水分などの付着は短絡の原因になります。

●試運転開始にあたっては、右記の「試運転モードへの切り替え作業」を行ってください。

図 -1 試運転モードへの切り替え作業

●リモコンスイッチに内蔵されたヒューミディスタットを無効にし、リモコンスイッチのボタン操作により加湿器の運転/停止を可能にします。下記要領で切り替えてください。

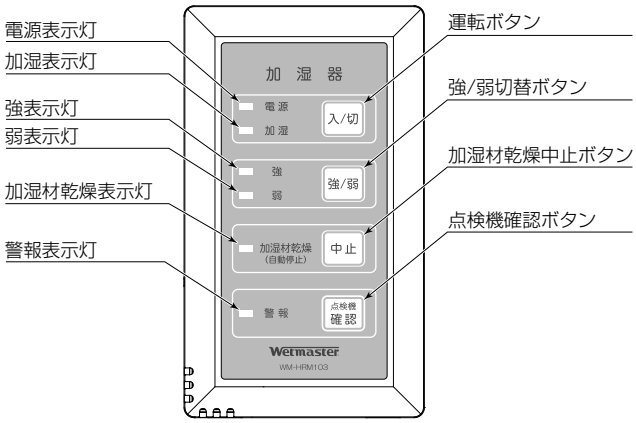


□加湿器元電源の漏電ブレーカを遮断した後、ON にして電源を供給する
□リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する※
□リモコンスイッチケースを開け、上ケース内ユニットのディップスイッチDS201（2番ピン）をONにし、試運転モードを「入」にする（図-1）**2番ピン以外は必ずOFFのままとしてください**
□試運転モードへの変更後はリモコンスイッチケースを元通りに閉める
□外部機器との連動運転を行っている場合には、連動用接点入力が ON となるように外部機器を運転する

※リモコンスイッチ初期設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、別冊の設定要領書または、P.9 の QR コードより手順を参照し、リモコンスイッチ初期設定を行ってください。設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。

3-2 試運転手順

● 準備完了後、下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください（次頁の試運転チェックリストをご活用ください）。

作業手順	注記
①運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約 10 分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。  ②運転開始の約 15 分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内コントロールユニットの LED10（P.15 図 -5 参照）が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。 ③そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれのないこと、警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。 ④強 / 弱切替ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いこと、吹出口から風が出ていることを確認する。 ⑤運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、表示灯が全て消灯することを確認する。 ⑥全ての表示灯が消灯している状態で、強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に3秒間長押しし、加湿材乾燥運転を実施してください（加湿材乾燥表示灯が点滅）。加湿材乾燥運転は約 2 時間後に自動終了します。	※ 運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「リモコンスイッチ初期設定がされていない」、「外部機器と連動設定されている」などの原因が想定されます。QR コードから FAQ を参照し、原因を特定してください。 【動画】 リモコンスイッチ 初期設定 【Web サイト /FAQ】 「加湿器が運転しない」 ※ドレン排水用ポンプはドレンパンに 750mℓ 程度の水が溜まると作動します。 ※試運転作業中に警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内コントロールユニット LED の点灯状態を確認してください（P.15 図 -5 参照）。警報表示の解除と対処方法は、P.14「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。 ※擬似的に警報を発報させる場合は、P.14「5-3 擬似警報発報手順とリセット方法」を参照してください。 ※試運転作業前に漏電ブレーカが遮断されなかった場合、ファンが起動することがあります（加湿材乾燥表示灯が点灯）。これは定時乾燥タイマーが積算通電時間に達したことによる、加湿材乾燥運転機能の起動によるものです。加湿材乾燥中止ボタンを押すと停止します。

3-3 試運転後の作業と最終点検

警告

以下の「試運転モード」ディップスイッチ切替作業は、活線作業（DC5V、DC12V）となります
必ず、絶縁用保護具を着用するか活線作業用器具を使用してください

適切な保護具、器具を使用しない場合は感電の原因になります。

● 試運転が終了したら、下記の作業を行ってください。
① P.8 図 -1 を参照しディップスイッチ DS201（2 番ピン）を OFF にし、試運転モードを「切」にする
②リモコンスイッチケースを元通りに閉める

● 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

- □ 加湿器本体は水平ですか？
- □ 給水配管からの水もれはありませんか？
- □ 排水配管からの水もれはありませんか？
- □ 排水配管の先下がり勾配は確保されていますか？
- □ 本体内部での水もれはありませんか？（化粧グリルを開けて内部点検）
- □ 各電気配線は正しく接続・固定されていますか？
- □ リモコンスイッチの上ケース内ユニットのディップスイッチ（P.8 図 -1）は全て OFF になっていますか？
- □ リモコンスイッチケースは閉まっていますか？

てんまい加湿器® 試運転チェックリスト

対象機器：WM-VCJ2201 ／ WM-VCJ2201E ／ WM-VCJ2201A ／ WM-VCJ2201AE
湿度検知：ヒューミ付リモコン

物件名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業会社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業担当名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Wetmaster（ ／ ）

●てんまい加湿器／ VCJ タイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
●機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

※本チェックリストは、必ず試運転作業要領書を一読してからご使用ください。

	確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
❶	設置位置	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
❷	加湿器型番	VCJ2201(E)またはVCJ2201A(E)	VCJ2201Aの場合は「A」に○、VCJ2201Eの場合は「E」に○を記入	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E
❸	Lot. No.	ロット番号の記録	化粧グリルを開けると確認できます										
❹	シリアル番号	シリアル番号の記録											

	実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
①	給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気が無いこと										
②	運転信号出力の設定確認	加湿器本体内基板コントロールユニット上のディップスイッチ DS3 を確認	Ⓐ「電源表示灯と連動」（DS2 番ピン OFF） Ⓑ「加湿表示灯と連動」（DS2 番ピン ON）	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
③	外部指令信号入力の設定確認	加湿器本体内基板コントロールユニット上のディップスイッチ DS3 を確認	Ⓐ「常時入力信号」（DS1 番ピン OFF） Ⓑ「瞬時入力信号」（DS1 番ピン ON）	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
④	リモコンスイッチ初期設定の実施	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合リモコンスイッチ初期設定がされていません。リモコンスイッチの強 / 弱切替ボタンと加湿材乾燥中止ボタンを同時に 3 秒以上長押し、リモコンスイッチ初期設定を実施する										
⑤	「設定確認モード」による ヒューミ付リモコン上の設定確認	リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコンによる湿度検知に設定されている										
			外部機器との連動設定「無」▶「有」（出荷時設定「連動無し」）	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有
			ヒューミディスタット感度変更「高」▶「低」（出荷時設定は「高」）	□ 低	□ 低	□ 低	□ 低	□ 低	□ 低	□ 低	□ 低	□ 低	□ 低
⑥	運転動作確認【起動】	リモコンスイッチ	試運転モードにおいて、運転ボタン ON で加湿表示灯が点灯、10 分後に本体ファンが起動すること										
⑦	加湿モジュール湿潤状態確認	加湿器本体内加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑧	加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	強 / 弱切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑨	ドレン排水用ポンプ動作確認	加湿器本体内ドレン排水用ポンプ コントロールユニットの LED10	運転開始約 15 分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること 加湿器本体内コントロールユニットの LED10 が点灯すること										
⑩	異常検知加湿器停止確認	加湿器本体 リモコンスイッチ	濡れた布などで漏水センサを擬似的に検知させ、加湿器が停止しリモコンスイッチ警報表示灯が点灯すること										
⑪	水もれが無いことを確認	加湿器本体給排水配管	30分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれの無いこと										
⑫	VCJ2201EまたはVCJ2201AEをグループ内で親機とした緊急停止の確認	緊急停止信号入力（常時入力信号）	グループ内で連動して緊急停止状態（ファン停止、リモコンスイッチ全消灯）になっていること										
⑬	運転動作確認【停止】	リモコンスイッチ	試運転モードにおいて、運転ボタン OFF で加湿表示灯が消灯し、本体ファンが停止すること										
⑭	加湿材の乾燥	リモコンスイッチ	運転ボタンを押して電源表示灯を消灯させ、運転停止中にリモコンスイッチの強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に 3 秒間長押しし、加湿材乾燥表示灯が点滅することを確認する。										
		※ 2 時間後、自動的に加湿器本体は加湿材乾燥運転を停止し、加湿材乾燥表示灯が消灯します。											
⑮	試運転モードの解除	リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコン上ケース DS201 の 2 番ピンが OFF										

備考　【作業後の状態】　給水バルブ：　開・閉　　漏電ブレーカ：　ON・OFF　　ヒューミディスタット設定：出荷時設定 40% RH から変更　無・有（　　% RH）

✓：実　施
×：未実施
－：該当無し

4 VCJ2201A 内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合

4-1 試運転準備

⚠ 警告

試運転作業は漏電ブレーカを遮断してから行う

❗ 本加湿器は給電開始後、24 時間※を経過するとファンが起動し加湿材乾燥運転を行います（定時乾燥タイマー）。ケガの原因となる作業中のファン起動を抑止するため、試運転作業前には漏電ブレーカの遮断による定時乾燥タイマーのリセットを行ってください。
※製品生産時期によっては、初回のみ給電後 12 時間で乾燥運転を行う場合があります。詳細はあらかじめお渡しした仕様書をご確認ください。

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

❗ 通電したままの作業は感電の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

- □ 水準器を使用し、加湿器本体が水平に取り付けられていること
- □ 給水配管のリングジョイントが確実に接続され、軟銅管の折れやつぶれのないこと
- □ 排水ホースはホースバンドで確実に接続され、排水配管は1/100以上の先下がり勾配が確保され、流れの障害がないこと
- □ 立ち上げ配管の場合、呼び径 13mm の塩ビ管または内径 φ15 ホースを使用し、立ち上げ高さ 800mm 以内（天井面から最大 1,200mm）に施工されていること
  市販の排水ホース（φ 19、φ 20）を使用している場合は別冊の施工要領書「市販の排水ホースを使用して排水配管を立ち上げる場合」に準じた施工がされていること
- □ 各電気配線が正しく接続・固定されていること
- □ グリル枠と天井板の間に、すき間やずれがないこと
- □ 天井面点検口の位置が適正であること（配管部などの保守作業に支障がないこと）
- □ P.2 ～ 4 記載の「試運転前の設定確認項目」の設定が実施済みであること（別冊の設定要領書参照）
- □ 給水配管のフラッシングが十分に実施されていること
- □ 加湿器本体内コントロールユニットのディップスイッチ設定が現場の制御要件に合っていること（表 -7、表 -8、表 -9 参照）
- □ 連動運転を行う場合は、別冊の設定要領書「4-3 加湿器本体内蔵ヒューミディスタットで連動運転を行う場合」に記載されている設定が完了していること

表 -7
運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定

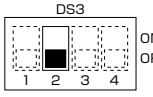
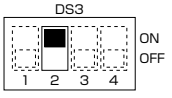
	電源表示灯と連動（出荷時設定）	加湿表示灯と連動
運転信号出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」で出力	運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」かつヒューミディスタット入力「ON」で出力
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.15 図 -5 を参照	
	スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。	実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合に使用します。

表 -8
外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

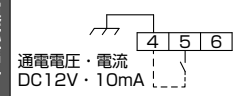
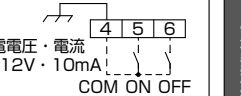
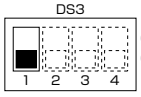
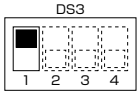
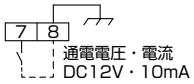
	常時入力信号（出荷時設定）	瞬時入力信号
運転信号出力		
DS設定		
備考	ディップスイッチの位置は P.15 図 -5 を参照	
	運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。	100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。

表 -9
緊急停止機能を使用する場合の信号出力と配線接続

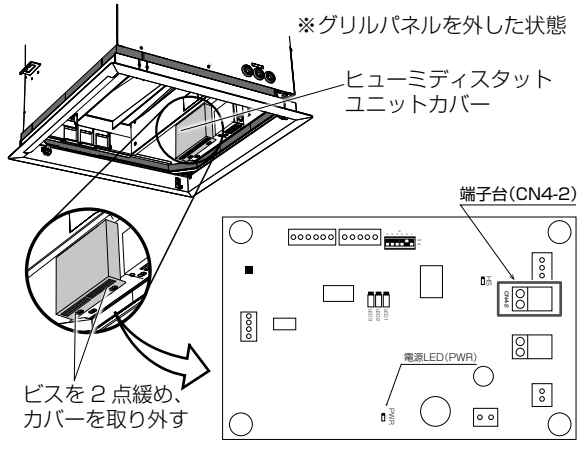
	緊急停止信号入力
対象型番	緊急停止機能付の VCJ2201E、VCJ2201AEのみ対象
信号の種類と配線接続	
備考	緊急停止信号入力時に ON、通常時は OFF となる接点信号を入力してください。

● 試運転開始にあたっては、下記の準備作業を行ってください。

- □給水サービス弁を開ける
- □ヒューミディスタットユニットのカバーを取り外し、ヒューミディスタットユニットの CN4-2（図 -2）を短絡する
  ※CN4-2 を短絡することで、加湿器本体に内蔵されたヒューミディスタットの設定湿度に関係なく運転します。
  ※CN4-2 の短絡は棒端子またはより線にて接続してください。
  ※ディップスイッチS1 の5 ～6 番ピンは、必ずOFF にしてください。
- □加湿器元電源の漏電ブレーカを ON にして電源を供給する。
- □リモコンスイッチの警報表示灯が点滅していないことを確認する。リモコンスイッチ初期設定を行っていない場合、警報表示灯が点滅します。この場合、別冊の設定要領書または QR コードより手順を参照し、リモコンスイッチ初期設定を実施してください。設定を行わない場合、加湿器を運転することはできません。
- □外部機器との連動運転を行っている場合には、連動用接点入力が ON となるように外部機器を運転する

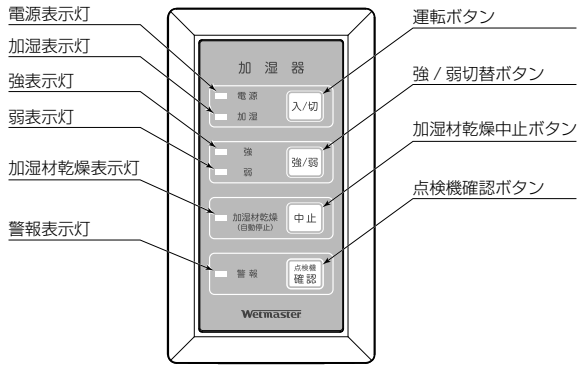
【動画】リモコンスイッチ初期設定

図 -2 VCJ2201A（E）ヒューミディスタッユニット詳細



4-2 試運転手順

● 準備完了後、下記の手順で試運転を行い、加湿器が正常に動作することを確認してください（次頁の試運転チェックリストをご活用ください）。

作業手順	注記
①運転ボタンを押し、電源表示灯・加湿表示灯・強表示灯が点灯し、約10分後に加湿器本体内のファンが運転を開始することを確認する。  	※ 運転ボタンを押しても左記の動作とならない場合は、「リモコンスイッチ初期設定がされていない」などの原因が想定されます。 QR コードから FAQ を参照し、原因を特定してください。 【動画】リモコンスイッチ初期設定 【Web サイト /FAQ】「加湿器が運転しない」
②運転開始の約 15 分後、ドレン排水用ポンプの運転音がすること、加湿器本体内コントロールユニットの LED10（P.15 図 -5 参照）が点灯していることを確認する。 ※ドレン排水用ポンプ起動までの時間は、給水圧力により変動します。	※ドレン排水用ポンプはドレンパンに 750mℓ 程度の水が溜まると作動します。
③そのまま 30 分間運転を継続し、本体および配管各部からの水もれのないこと、警報表示灯の点灯、警報信号出力がないことを確認する。	※試運転作業中に警報表示灯が点灯した場合は、加湿器本体内コントロールユニット LED の点灯状態を確認してください（P.15 図 -5 参照）。 警報表示の解除と対処方法は、P.14「5-2 警報表示の原因と処置」を参照してください。
④強 / 弱切替ボタンを押して弱運転に切り替え、ファンの送風音が弱くなること、異音が無いこと、吹出口から風が出ていることを確認する。	※擬似的に警報を発報させる場合は、P.14「5-3 擬似警報発報手順とリセット方法」を参照してください。
⑤運転ボタンを押して加湿運転を終了させ、表示灯が全て消灯することを確認する。	※試運転作業前に漏電ブレーカが遮断されなかった場合、ファンが起動することがあります（加湿材乾燥表示灯が点灯）。これは定時乾燥タイマーが積算通電時間に達したことによる、加湿材乾燥運転機能の起動によるものです。加湿材乾燥中止ボタンを押すと停止します。
⑥全ての表示灯が消灯している状態で、強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に3秒間長押しし、加湿材乾燥運転を実施してください（加湿材乾燥表示灯が点滅）。加湿材乾燥運転は約２時間後に自動終了します。	

4-3 試運転後の作業と最終点検

● 加湿材乾燥が終了しファンが停止した後に、ヒューミディスタットユニットのカバーを取り外し、ヒューミディスタットユニットの CN4-2（P.11 図 -2）の短絡を外してください。

● 安全のため、最終点検をお願いします。不都合な点があれば必ず修正してください。

- □ 加湿器本体は水平ですか？
- □ 給水配管からの水もれはありませんか？
- □ 排水配管からの水もれはありませんか？
- □ 排水配管の先下がり勾配は確保されていますか？
- □ 本体内部での水もれはありませんか？（化粧グリルを開けて内部点検）
- □ 各電気配線は正しく接続・固定されていますか？
- □ ヒューミディスタットユニットの CN4-2（P.11 図 -2）の短絡は外されていますか？

てんまい加湿器® 試運転チェックリスト

Wetmaster（　／　）

対象機器：WM-VCJ2201 ／ WM-VCJ2201E ／ WM-VCJ2201A ／ WM-VCJ2201AE
湿度検知：WM-VCJ2201A ／ WM-VCJ2201AE 内蔵ヒューミディスタット

物件名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業会社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業担当名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

- てんまい加湿器／ VCJ タイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
- 機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

※本チェックリストは、必ず試運転作業要領書を一読してからご使用ください。

	確認項目	確認事項	備考	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
❶	設置位置・系統	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
❷	加湿器型番	VCJ2201(E)またはVCJ2201A(E)	VCJ2201Aの場合は「A」に○、VCJ2201Eの場合は「E」に○を記入	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A E	A EA	A E
❸	Lot. No.	ロット番号の記録	化粧グリルを開けると確認できます										
❹	シリアル番号	シリアル番号の記録											

	実施項目	作業箇所	判定事項	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
①	給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され、供給水に汚濁・臭気が無いこと										
②	運転信号出力の設定確認	加湿器本体内基板コントロールユニット上のディップスイッチ DS3 を確認	Ⓐ「電源表示灯と連動」（DS2 番ピン OFF） Ⓑ「加湿表示灯と連動」（DS2 番ピン ON）	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
③	外部指令信号入力の設定確認	加湿器本体内基板コントロールユニット上のディップスイッチ DS3 を確認	Ⓐ「常時入力信号」（DS1 番ピン OFF） Ⓑ「瞬時入力信号」（DS1 番ピン ON）	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ	□Ⓐ □Ⓑ
④	リモコンスイッチ初期設定の実施確認	リモコンスイッチ	電源投入後、警報表示灯が点滅した場合、リモコンスイッチ初期設定がされていません。リモコンスイッチの強 / 弱切替ボタンと加湿材乾燥中止ボタンを同時に 3 秒以上長押し、リモコンスイッチ初期設定を実施する										
⑤	「設定確認モード」による ヒューミ付リモコン上の設定確認	リモコンスイッチ	VCJ2201A(E)内蔵ヒューミディスタットによる湿度検知に設定されていること										
			外部機器との連動設定「無」▶「有」（出荷時設定「連動無し」）	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有	□ 有
⑥	湿度検知を行う VCJ2201A の確認	本体内ヒューミディスタットユニット	ヒューミディスタットユニットのディップスイッチ S1 の 5 番ピンが OFF ※加湿器制御グループ（最大 10 台）の内 1 台が該当										
⑦	運転動作確認【起動】	リモコンスイッチ	ヒューミディスタットユニット端子台 CN4-2 が短絡された状態で、運転ボタン ON で加湿表示灯が点灯、10 分後に本体ファンが起動する										
⑧	加湿モジュール湿潤状態確認	加湿器本体内加湿モジュール	加湿モジュール下流側を手で軽く触れ、全面が濡れていること										
⑨	加湿器送風ファン動作確認	リモコンスイッチ	強 / 弱切替ボタンとファンの動作が連動し、異音の無いこと										
⑩	ドレン排水用ポンプ動作確認	加湿器本体内ドレン排水用ポンプ コントロールユニットの LED10	運転開始約 15 分後にドレン排水用ポンプの運転音がすること 加湿器本体内コントロールユニットの LED10 が点灯すること										
⑪	異常検知加湿器停止確認	加湿器本体リモコンスイッチ	濡れた布などで漏水センサを擬似的に検知させ、加湿器が停止しリモコンスイッチ警報表示灯が点灯すること										
⑫	水もれが無いことを確認	加湿器本体給排水配管	30分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれの無いこと										
⑬	VCJ2201EまたはVCJ2201AEをグループ内で親機とした緊急停止の確認	緊急停止信号入力（常時入力信号）	グループ内で連動して緊急停止状態（ファン停止、リモコンスイッチ全消灯）になっていること										
⑭	運転動作確認【停止】	リモコンスイッチ	運転ボタン OFF で加湿表示灯が消灯し本体ファンが停止すること										
⑮	加湿材乾燥にて作業終了	リモコンスイッチ	運転ボタンを押して電源表示灯を消灯させ、運転停止中にリモコンスイッチの強 / 弱切替ボタンと点検機確認ボタンを同時に 3 秒間長押しし、加湿材乾燥表示灯が点滅することを確認する。										
		※ 2 時間後、自動的に加湿器本体は加湿材乾燥運転を停止し、加湿材乾燥表示灯が消灯します。											
⑯	湿度検知無効化の解除	ヒューミディスタットユニット端子台	端子台 CN4-2 の短絡線の取外し										

備考　【作業後の状態】　給水バルブ：　開・閉　　漏電ブレーカ：　ON・OFF　　ヒューミディスタット設定：出荷時設定 40% RH から変更　無・有（　　% RH）

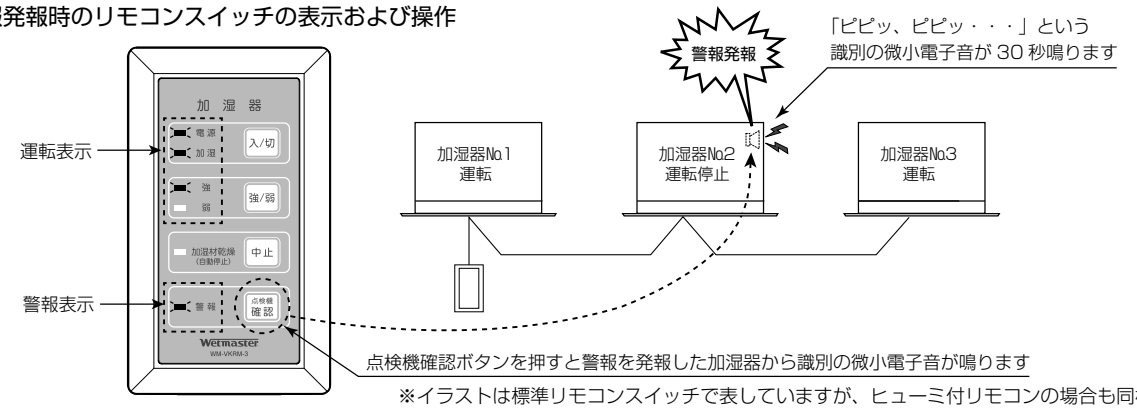
✓：実　施
×：未実施
－：該当無し

5 警報・試験について

5-1 警報発報時の運転停止動作およびリモコンスイッチの表示について

- 1 つのリモコンスイッチで加湿器本体を複数台制御する場合には、安全保護機能が作動した加湿器のみ運転を停止します。この時、リモコンスイッチの表示は運転状態の表示と警報発報の表示の両方を表示します(図 -3)。
- 警報発報時に点検機確認ボタンを押すと警報を発報した加湿器より微小電子音が 30 秒間鳴ります。加湿器本体からの電子音を確認することで警報を発報した加湿器が特定できます(微小電子音を途中で止めたい場合には点検機確認ボタンをもう一度押します)。

図 -3 警報発報時のリモコンスイッチの表示および操作



※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

5-2 警報表示の原因と処置

- リセットスイッチ BS1 の詳細は P.15「6-1 コントロールユニット詳細」を参照

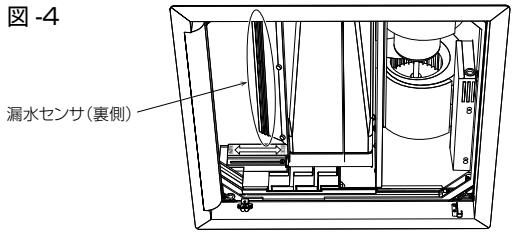
警報表示	警報の内容	原因と処置	
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットの LED3（赤）が点灯	**ドレンパン高水位** を検知	原因	・加湿器本体が水平でない ・排水配管の先下がり勾配が不十分 ・排水配管に極端な曲がりや空気だまりがある ・ドレン排水用ポンプへの異物流入
		処置	給水サービス弁を閉める。原因を特定し、修正する。
		解除方法	コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す。
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットの LED4（緑）が点灯	**漏水** を検知	原因	本体内の水滴回収板の漏水センサに水滴が付着（水滴飛散）している。
		処置	本体内の水滴回収板の漏水センサ部の水滴を拭き取る。
		解除方法	コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す。
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットの LED5（黄）が点灯	**給水電磁弁リーク** を検知	原因	給水ユニットがリークしている。
		処置	給水サービス弁を閉め、弊社宛サービスへ問い合わせる。
		解除方法	コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す。
リモコンスイッチの警報表示灯が点灯 コントロールユニットの LED5（黄）または LED7（緑）が点灯	**ドレン排水用ポンプ排水異常** を検知	原因	・加湿器ドレンパン上の汚れ ・排水配管の先下がり勾配が不十分 ・排水配管に極端な曲がりや空気だまりがある ・ドレン排水用ポンプへの異物流入
		処置	給水サービス弁を閉める。原因を特定し、修正する。
		解除方法	コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す。

5-3 擬似警報発報手順とリセット方法

- 擬似警報の発報でも、外部出力を行いますのでご注意ください。

①漏水センサに濡れた布などをあてる（図 -4）
②加湿器が運転を停止し、警報表示灯が点灯することを確認する
③漏水センサを乾いた布などで拭き、乾かす
④加湿器本体内コントロールユニットのリセットスイッチ BS1 を押す（P.15 図 -5 参照）

図 -4



5-4 停電試験を行う場合

注意

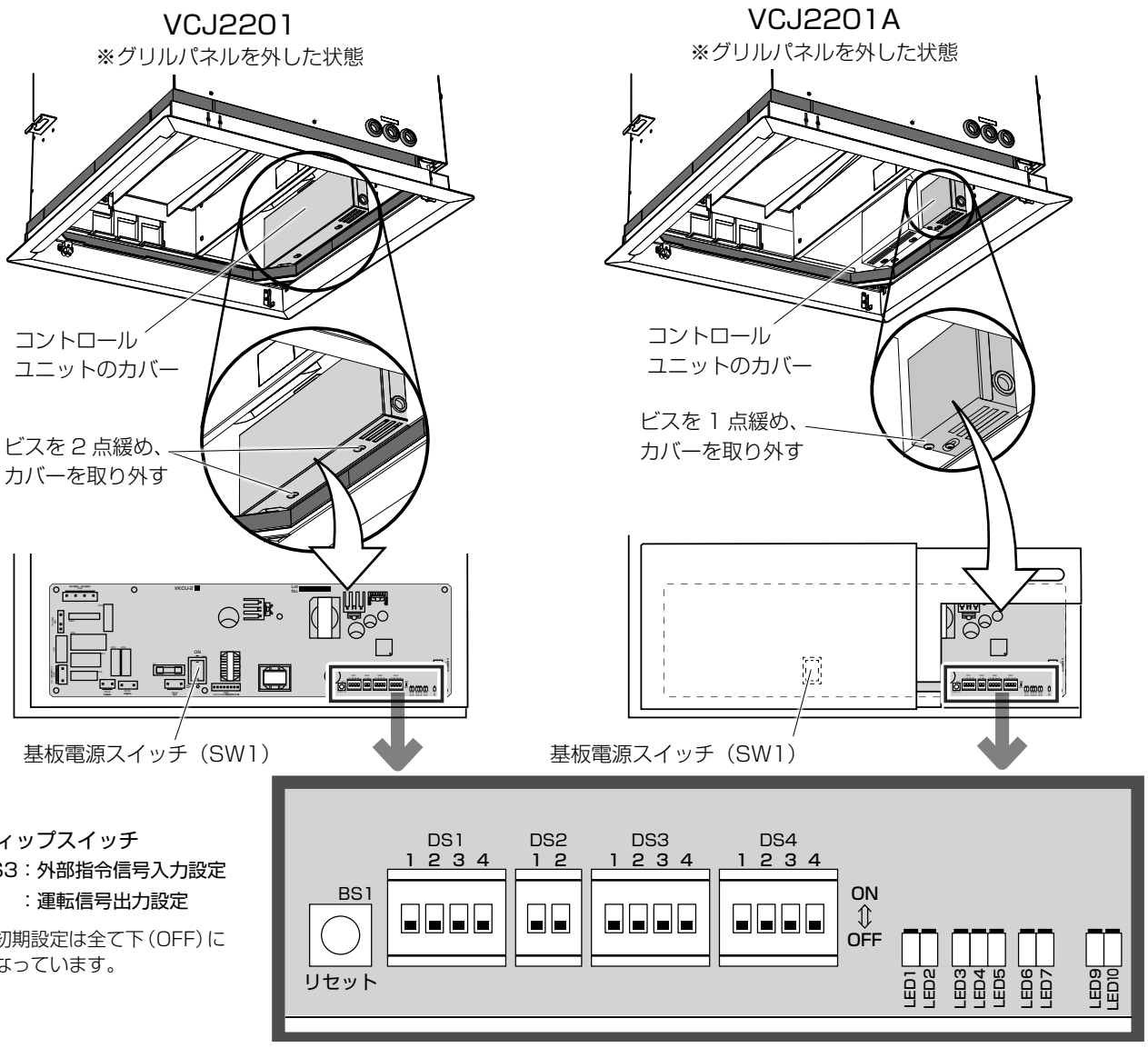
加湿器の停電試験を行う際は、必ず給水サービス弁を閉める

万一、電磁弁が故障している場合、通水状態で電源を遮断するとドレン排水用ポンプが作動せず、漏水事故の原因になります。

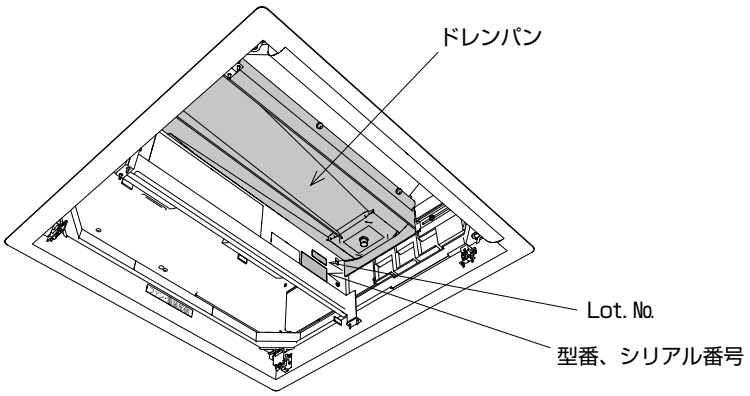
- 本加湿器の排水は、ドレン排水用ポンプによって行われます。停電試験を行う際は、あらかじめ給水サービス弁を閉め、加湿器への給水を停止してください。
- 運転中の加湿器が停電により停止した場合、復電時の自動復帰は行いません。リモコンスイッチまたは外部指令信号による手動での運転復帰が必要です。
- 瞬間停電の場合は、0.02 秒以下であれば運転を継続します。
- 停電試験の実施により加湿器への電源供給が停止するため、定時乾燥タイマーはリセットされます。

6-1 コントロールユニット詳細

図 -5 コントロールユニット外観略図



6-2 型番、シリアル番号、ロット番号表示位置



ウエットマスター株式会社
https://www.wetmaster.co.jp
保守サービス営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15WM 本社ビル TEL.03-3954-1110 FAX.03-3954-1163
大阪支店 TEL.06-4790-6606　名古屋営業所 TEL.052-745-3277　仙台営業所 TEL022-772-8121　福岡営業所 TEL.092-471-0371

※ QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。

5710-020202